

分かる！ 快感！

# Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

## 8世紀の世界の中心はどこ？

（東京大学 2003年 日本史）

「Z会ナビ」が  
Webサイト  
でも読めます！



Z会おとナビ新聞 検索

これまでの内容も掲載しています！

次の文章を読んで、8世紀の日本の外交について、説明しなさい。

(1) 中国に倣った国づくりを進めていた日本では、中国と同様に、外国を「外蕃」「蕃国」と呼んだ。ただし唐のことは他の国と区別して「隣国」と呼ぶことがあった。

(2) 遣唐使の大使古麻呂は、唐の玄宗皇帝が主催した儀式に参列した際、日本と新羅とが席次を争ったと報告した。8世紀には、日本は唐に20年に1度朝貢する約束を結んでいたと考えられる。

(3) 743年、新羅使は、それまでの「調」という貢ぎ物の名称を「土毛」（土地の物産）に改めたので、日本の朝廷は受け取りを拒否した。このように両国の関係は緊張することもあった。

(4) 8世紀を通じて、新羅使は20回ほど来日している。長屋王は新羅使の帰国にあたって自宅で宴を催し、漢詩を詠み交わした。また、752年の新羅使は700人あまりの大人数で、アジア各地のさまざまな品物をもたらし、貴族たちが競って購入した。



イラスト：瑞木匠

## 互いに影響力

思想」とは、中国が全世界の中心であるという考え方のことです。当時の東アジア世界には中華思想が浸透しており、中国周辺の各国は定期的に中国を訪問し、中国の属国として貢ぎ物をささげる代わりに中国から位や物品を賜っていました。これを朝貢といいます。日本も、今回の問題に出てくる朝鮮半島の国である新羅も、中国（8世紀当時は「唐」）に朝貢していました。

### 建前と実態

5世紀以降、日本は中国との関係を密にすることでほかの国よりも優位に立とうとしていま

たが、8世紀になると中国に倣った国づくりを本格的に進め、次第に日本を中心に置く中華思想を抱くようになりました。そのため、(1)のように外国を「野蛮な国（外蕃、蕃国）」として自らの下に位置付けるようになったのです。

このルールにのっとると唐も「蕃国」となるのですが、実際には国力の差は圧倒的で、(2)にあるように変わらず朝貢し、対等な「隣国」と称するのが精いっぱいでした。

日本から見れば、新羅も日本に朝貢すべき「蕃国」でしたが、(3)のように新羅が貢ぎ物ではなく「物産」を持ってきたことから、新羅は必ずしも日本の属国だとは思っていなかったことが見受けられます。唐の儀式で席次を争う様子を見ても、対等という認識だったのでしょう。

また、(4)を見ると、日本でも新羅を属国というよりは先進的な文化をもたらす国、ととらえていた一面があることがわかります。20年に1回であった唐との交流に比べ、8世紀に20回と頻繁に来日した新羅使は、日本に大陸の文化や情報を伝える、非常に重要な役割を担っていたと考えられます。

【Z会・河原井彩】

### ！今回の教訓

中国や朝鮮半島とは緊張もありつつも、長く密な交流を続け、日本の政治・文化に大きな影響を与えました。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。

### 中国が全世界の中心

今回の問題の解説をする前に、8世紀当時の東アジア世界を語る上でのキーワードとなる「中華思想」について紹介しましょう。「中華